

## 8 山 岳 総 合 セ ン タ ー

### (1)職員組織

所長 1 専門主事 1 主幹(出納員) 1

### (2)施設の概要

教室・講堂・体験室・図書室・談話室・宿泊室(9室64人収容)・食堂・浴室・装備室・応接室・事務室  
予備室・その他(附属施設 人工岩場)

### (3)事業実績

山岳に関する研究及び調査並びに健全な登山に関する教育事業を積極的に実施した。  
各講座の実施状況は以下の通り。

NO	講座名	募集 定員	応募 者数	受講 者数	うち 県内	性 別		年 代 別 構 成					
						男	女	～19	20代	30代	40代	50代	60～
学1	長野県高等学校登山研修会	15	26	25	25	24	1	20	0	1	1	2	1
学2	集団登山引率者研修会 A (東北信地区対象者)	20	16	15	15	11	4		2	8	5		
学3	集団登山引率者研修会 B (中南信地区対象者)	20	26	26	26	12	14		3	13	10		
学4	小・中学生クライミング教室	40	80	73	61	44	29	45		9	13	5	1
学5	高校生クライミング教室 (天候により本年度は中止)	25	24										
共6	登山の基礎講座Ⅰ「夏山に向けて (登山医学・読図他)」	45	63	57	39	38	19		8	14	15	8	12
共7	登山の基礎講座Ⅱ「冬山に向けて (山岳気象・冬山装備他)」	45	59	53	37	39	14		7	20	16	5	5
共8	岩登りとスポーツクライミング	25	59	28	18	19	9		4	10	9	5	
生9	山で役立つ救急法 (リーダーコース生)	25	38	22	17	14	8		5	5	9	1	2
生10	雪上技術講習会Ⅰ「ヒッケル、アイゼン の使い方とロープによる確保技術」	35	49	38	23	26	12		6	9	14	7	2
生11	雪上技術講習会Ⅱ (リーダーコース生)	25	26	20	16	14	6		4	6	8	1	1
生12	登山の危急時対策Ⅰ (リーダーコース生)	25	26	21	14	16	5		5	6	7	1	2
生13	講師研修会Ⅰ(夏山)	40	17	15	11	11	4			4	5	2	4
生14	講師研修会Ⅱ(登山案内人)	10	6	5	5	4	1				2		3
生15	初めての山登り	25	30	26	14	10	16			5	3	11	7
生16	登山の危急時対策Ⅱ (リーダーコース生)	25	25	23	18	17	6		6	7	8	1	1
生17	講師研修会Ⅲ(冬山)	40	47	43	32	34	9		7	9	13	9	5
生18	冬山講習会 「雪山の歩行と雪洞の作り方」	35	46	35	23	25	10		6	13	10	3	3
生19	リーダーコース終了研修 (リーダーコース生)	25	24	21	17	15	6		6	5	7	1	2
	合 計	545	687	546	411	373	173	65	69	144	155	62	51

※No欄「学」:学校体育研修講座、「共」:学校体育・生涯スポーツ共通研修講座、「生」:生涯スポーツ共通講座

**(ア)学校体育研修講座**

(◎実技主任講師 ☆座学講師) ※受講率＝受講数÷定員×100

講座名 (日数)		期 日		場 所		受講対象/定員	
長野県高等学校登山研修会(2日)		5月14日(土) ～15(日)		センター 針ノ木雪渓		高校山岳部員と顧問 15名	
【高等学校の山岳部の生徒及び指導者が、雪上歩行とロープワーク及び幕営など生活技術の基礎を身につける。】							
申込数	受講者数	男	女	県内	県外	受講率	◎今滝 郁夫 大西 浩 高橋 政男 村田 健治
26	25	24	1	25	0	167%	
土、日の2日間で実施。 1日目は、開講式の後、扇沢に入山し、テント設営。その後、雪上歩行中心の訓練を予定していたが、天候が良くなかったので中止。その分テント生活の訓練が十分できた。 2日目は、歩行訓練、滑落停止、フィックスロープ訓練等を実施。峠までは行かず。							
講座名 (日数)		期 日		場 所		受講対象/定員	
集団登山引率者研修会A(1日) 集団登山引率者研修会B(1日)		A:6月 2日(木) B:6月14日(火)		A:山岳総合 センター B:総合教育 センター		長野県学校教職員 市町村担当者 A:20名 B:20名	
【集団登山での、生徒の意欲の問題や身体に関する不安を研究協議によって解消し登山に関する知識や技術を実際の登山を通して身につける。】							
A 申込数	受講者数	男	女	県内	県外	受講率	◎中川 惠市 古幡 和敬 村田 健治 傘木 靖
16	15	11	4	15	0	75%	
B 申込数	受講者数	男	女	県内	県外	受講率	
26	26	12	14	26	0	130%	
午前中は中川講師より、「山の魅力と安全」の講義を行った後、「登山の基礎技術、安全確保技術」(ツェルトの張り方、トランシーバーの有効な使い方)の実技を行った。 午後は、古幡講師より「救急法の基本と心得」の講義を行ったあと、「安全確保技術」(搬送の仕方、簡単なロープワーク)の実技を行った。							
講座名 (日数)		期 日		場 所		受講対象/定員	
小・中学生クライミング教室(1日)		7月31日(日)		センター人 工岩場		小・中学生及びその保護者	
【人工壁のクライミング体験やボルダリング体験を通して、安全な岩登りの基礎的な知識や技術身につけ、山や岩を登る楽しさを味わう。夏休みの楽しい思い出の1日となるよう、「楽しむ」事を第一にする。】							
申込数	受講者数	男	女	県内	県外	受講率	中村和義 山田正充 榛葉伸男 稲田憲治 西田 均 山崎和彦 豊田政雄 小口得也 河竹康之 市川良治 栗原 久 山村健治 村田健治 傘木 靖
80	73	44	29	61	12	183%	
人工岩場会場では、河竹講師が、ハーネスの付け方・ロープの結び方、基本的な登り方と降り方・注意事項等をデモンストレーションを交えて行った。その後、外壁・内壁の空いているところへ自由にいて(ローテーションとはせず)登った。ロープの確保についても講習し、保護者も空いているところで登った。 ボルダリング壁会場では、講師が登り方を説明して、参加者が自分のレベルにあったルートに登った。グループの半数は山岳博物館の見学。							
講座名 (日数)		期 日		場 所		受講対象/定員	
高校生クライミング研修会(2日)		9月 3日(土) ～ 4日(日)		センター センター人 工岩場		高等学校山岳部員、顧問 一般高校生 25名	
【生徒:クライミングを楽しむとともに、登るための技能の向上。 顧問:登るための技能の向上および生徒に安全かつ意欲的にクライミングをさせるための指導力の向上。】							
申込数	受講者数	男	女	県内	県外	受講率	
24	0						
天候の悪化が予想されるために、前日講座を中止にした。							

## (イ) 学校体育・生涯スポーツ共通研修講座

講座名 (日数)		期 日	場 所	受講対象/定員			
登山の基礎講座Ⅰ(2日) 「夏山に向けて(登山医学・読図他)」		7月2日(土) ～3日(日)	センター	リーダーコース生 一般 45名			
【登山における体のはたらきと病気やけがの手当、自然保護、遭難事例から学ぶこと、地図の読み取りについて学習し、安全で有意義な登山を行うための基礎的な知識を獲得する。】							
申込数	受講者数	男	女	県内	県外	受講率	☆岸本 良輔 ☆岡田 嘉彦 ☆古幡 和敬 ☆浮須 由実 村田 健治 傘木 靖
63	57	38	19	39	18	127%	
1日目は岸本講師「野生生物の生態と被害」の講義を行った後、岡田講師による「遭難事例に学ぶ」の講義を行った。次に、ビバーク技術と簡単なロープワークの実習があった後、古幡講師の「登山中における救急法」の講義を行った。 2日目は、浮須講師から「地図の読みとり」について講義を行い、屋外に出て「地図とコンパスによる現在位置の確認」の実習を行った。							
講座名 (日数)		期 日	場 所	受講対象/定員			
岩登りとスポーツクライミング(2日)		10月29日(土) ～30日(日)	センター センター人工 岩場 物見の	一般(初心者・60歳以下) 25名			
【「岩登り」と「スポーツクライミング」の基礎的な知識や技術を学んだり体験したりすることにより、「クライミング」の楽しさを味わうとともに、安全確保についての考え方を身につける。】							
申込数	受講者数	男	女	県内	県外	受講率	◎森山 義雄 水谷 剛生 羽山菜穂子 浅井 和英 松山 信 村田 健治 傘木 靖
59	28	19	9	18	10	112%	
1日目は、「クライミングの基礎知識」の講義の後、人工岩場においてロープの結び方等基本的な事を行い、グループ毎各壁面をトップロープで登ること・確保の練習・懸垂下降・簡単なリードクライミングを行った。夕方はセンターで、クライミングの危険や安全、人工壁と自然の岩場の違いについて主任講師の講義と、懸垂下降とセカンド確保について主任講師の講義および実技講習を行った。 2日目は、物見の岩へ行き、支点作りと懸垂下降、セカンド確保およびトップロープ(斑によってはリードクライミングも)でのクライミングを行った。お昼前からの降雨のため、予定より早くセンターに移動し、昼食を食べた後ボルダリングコンペを行った。							
講座名 (日数)		期 日	場 所	受講対象/定員			
登山の基礎講座Ⅱ(2日) 「冬山に向けて(山岳気象・冬山装備他)」		12月 3日(土) ～ 4日(日)	センター	リーダーコース生 一般(夏山登山経験者) 40名			
【冬山の登山計画の立て方や登山に必要な装備と食料について学ぶとともに、雪崩ビーコンの使い方や天気図の読み取りについて知識を深めることによって、安全で有意義な冬山登山を行うための基礎的な力を身につける。】							
申込数	受講者数	男	女	県内	県外	受講率	☆城所 邦夫 ☆中村 和義
59	53	39	14	37	16	133%	
1日目は中村講師より、パワーポイントを使って冬山全般および冬山登山計画の立て方について講義を行った。午後は「冬山登山に必要な装備」について、中村講師、村田、傘木の3人が、実際に使用している装備を示しながらポイントを絞って話をした。1日目の最後は、「天気図の読み取り」について、城所講師の講義。 2日目は引き続き城所講師より冬山の天気、高層天気図、雷、観天望気等について講義。午後は、「雪崩の危険」についての講義の後、大町公園で実際にビーコンを使っての実習を行った。							

## (ウ) 生涯スポーツ共通研修講座

講座名 (日数)		期 日	場 所	受講対象/定員			
山で役立つ救急法 (3日) (リーダーコースのみの講座)		4月15日(金) ～17日(日)	センター	リーダーコース生 26名			
【平成23年度リーダーコースの開講にあたってオリエンテーションを受け、1年間の心構えを持つ。登山活動中および日常生活でおこる病気やけがに対して、必要な救急処置の方法を学び、日赤救急員資格を取得する。】							
申込数	受講者数	男	女	県内	県外	受講率	◎古幡 和敬
38	22	14	8	17	5	85%	
古幡講師が、配布した教本、実際の山での遭難事例、平地で見聞した事例等を出しながら講義と実技指導を行った。 3日目には実技と筆記の試験を行い、実技の追試者もいたが、全員日赤救急員資格を取得できた。							

講座名 (日数)		期 日		場 所		受講対象/定員	
雪上技術講習会 I (3日) 「ピッケル、アイゼンの使い方と ロープによる確保技術」		5月13日(金) ～15(日)		センター 針ノ木雪渓		リーダーコース生 一般(雪山初心者・60歳以下) 35名	
【残雪期登山に必要な、アイゼンやピッケルの使い方やロープによる確保技術を学んだり、雪上での 幕営生活技術を身につけたりすることを通して、雪山の魅力を知り楽しむ。】							
申込数	受講者数	男	女	県内	県外	受講率	◎山田正充 杉田浩康 榛葉伸男 中村和義 水谷剛生 栗原 久 傘木 靖
49	38	26	12	23	15	109%	
1日目は、山田講師が「残雪期の登山の基本と必要な技術」について教本を使って講義を行った。午後は、班 会や買い出し、班毎による準備を実施。 2日目は針ノ木雪渓に入り、大沢小屋周辺にテントを設営後大沢で雪上歩行の訓練を中心におこなった。天 候にも恵まれ予定通り訓練を実施。 3日目も好天に恵まれ、予定通り下山。 大沢小屋周辺は、4月末に起きた大規模な雪崩のあとが残り、例年とは違う状況。大沢もかなりあれていた。							
講座名 (日数)		期 日		場 所		受講対象/定員	
雪上技術講習会 II (2日) (リーダーコースのみの講座)		5月28日(土) ～29日 (日)		針ノ木雪渓		リーダーコース生 26名	
【雪上技術講習会 I の技術確認をするとともに応用力を養う。】							
申込数	受講者数	男	女	県内	県外	受講率	◎榛葉 伸男 中村 和 義 栗原 久 村田 健治 傘木 靖
26	20	14	6	16	4	77%	
1日目は、扇沢駅に集合し、針ノ木雪渓に入山後、雪上技術講習会 I の実技復習(雪上歩行技術、滑落停止 技術、ロープワーク等)を行った。 夜は、雨のため予定を変更して、センターでビバーク訓練を実施。 2日目は雨天の中、人工岩場で岩登りを中心とした訓練を行った。							
講座名 (日数)		期 日		場 所		受講対象/定員	
登山の危急時対策 I (3日) (リーダーコースのみの講座)		7月16日(土) ～18(日)		センター センター人 工岩場 七倉沢		リーダーコース生 26名	
【夏山における支点の作り方、危険箇所の通過、ビバーク方法をみにつける。】							
申込数	受講者数	男	女	県内	県外	受講率	◎榛葉 伸男 水谷 剛生 中村 和義 栗原 久 榛葉 伸男 傘木 靖
26	21	16	5	14	7	81%	
1日目は、榛葉講師から「危急時対策と確保理論」の講義を受けたあと、人工岩場にて懸垂下降訓練およびタ イヤ落としによる確保訓練を行った。 2日目は、七倉沢に入山し、班毎に支点の構築や確保の訓練を行った後ビバークした。 3日目は、確保訓練、懸垂下降訓練、渡渉等を繰り返し行った。							
講座名 (日数)		期 日		場 所		受講対象/定員	
講師研修会1(夏山)(2日)		8月27日(土) ～28日 (日)		センター人 工岩場 高瀬川支流 七倉沢		センター研修講座講師 山岳会指導者・山岳関係 者 40名	
【無雪期における危急時対策訓練により、指導者の立場としてこれからの山行や研修会をより 安全なものとする。】							
申込数	受講者数	男	女	県内	県外	受講率	◎高橋 政男 村上 周平 村田 健治 傘木 靖
17	15	11	4	11	4	38%	
1日目は人工岩場にて開講式をしてから研修開始。各班毎計画に従い、懸垂下降等について研修を実施。人 工岩場にて2班合同で研修のまとめをしたあと、夕方七倉沢に移動し夜は全員で情報交換会後ビバーク。 2日目は、七倉沢で現場での危急時対策訓練の研修を行った。							

講座名 (日数)		期 日	場 所	受講対象/定員			
講師研修会Ⅱ(登山案内人) (1日)		9月9日(金)	センター人工岩場 仏崎の岩場	登山案内人研修(実技)の講師 10名			
【信州登山案内人能力向上研修(実技)において、講師として各登山案内人に伝達するための、登山案内人に必要な安全確保技術の習得を目指す。また、各案内人組合における登山技術の向上を図る。】							
申込数	受講者数	男	女	県内	県外	受講率	◎村田 健治
6	5	4	1	5	0	50%	
午前中は、人工岩場にて、懸垂下降とフィックスロープのセットを中心とした実技研修を実施。簡易ハーネスを使ったやり方や肩がらみも試してみた。 午後は仏崎の岩場に移動して、より実践的な研修を行った。時間的には少なかったが、搬送法の実践も行った。 昨年度までは2日間の研修であったが、今年度は1日で実施。							
講座名 (日数)		期 日	場 所	受講対象/定員			
初めての山登り(3日)		9月30日(金) ～10月2日	センター 爺ヶ岳	一般・初心者(65歳以下) 25名			
【これから登山を始めようとする者が、秋山期登山に必要な計画の立案、装備や食料の準備、登山道の歩き方、休憩の取り方、山小屋での過ごし方等基礎的な登山技術を学び実践しながら秋山を楽しむ。】							
申込数	受講者数	男	女	県内	県外	受講率	◎杉田 浩康 吉田 高広 村田 健治 傘木 靖
30	26	10	16	14	12	104%	
1日目はセンターにて杉田講師が「登山の基礎」について講義をした後、班毎に登山計画書の作成と概念図作成、地図の見方、装備点検等の実技を行った。 2日目は、貸し切バス(1人2000円)で扇沢に移動し、班毎に、柏原新道から歩き方、休み方、地図による現在位置の確認、フィックスロープの通過などを研修しながら爺ヶ岳(南方)に登頂し種池山荘に宿泊した。 3日目は、柏原新道より下山しセンターにて昼食、片付けをして解散した。 パルスオキシメーターによる酸素飽和濃度の測定を4回行い、杉田講師にデータを渡した。							
講座名 (日数)		期 日	場 所	受講対象/定員			
登山の危急時対策Ⅱ(2日) (リーダーコースのみの講座)		10月15日(土) ～16日(日)	高瀬川支流 七倉沢	リーダーコース生 26名			
【夏山における危険箇所の通過、ビバーク、負傷者の搬出方法等を身につける。】							
申込数	受講者数	男	女	県内	県外	受講率	◎榛葉 伸男 中村 和義 水谷 剛生 栗原 久 村田 健治 傘木 靖
25	23	17	6	18	5	88%	
1日目は、七倉駐車場に集合し七倉沢に入山。最終堰堤の上部河原をビバーク地として荷物をデポしたあと、周辺の岩場で支点構築や渡渉、懸垂下降の訓練を行った。 2日目は背負い搬送、松葉杖、担架、索道による搬送などによる搬送の訓練を行った。							
講座名 (日数)		期 日	場 所	受講対象/定員			
講師研修会Ⅲ(冬山)(2日)		1月21日(土) ～22日(日)	センター 黒沢尾根	センター研修講座講師 山岳会指導者・山岳関係者			
【講師として、または山岳関係のリーダーとして、雪質観察や埋没者の捜索救出訓練・搬送訓練をどう展開したらよいか等について検討することを通して、講師またはリーダーとしての資質を高める。】							
申込数	受講者数	男	女	県内	県外	受講率	◎東 秀訓 村田 健治 傘木 靖
47	43	34	9	32	11	108%	
1日目はセンターで講義を受けた後、センター前の公園で、ビーコンの特性等を検証する実技。センターに戻ってからは、班別及び全体協議。 2日目は、鹿島槍スキー場から黒沢尾根にとりつき、8班に分かれて雪質の観察、弱層テスト、雪崩埋没者捜索訓練、搬送訓練などを行い、班毎で検討を加えた。							

講座名 (日数)				期 日	場 所	受講対象/定員
冬山講習会(4日) 「雪山の歩行と雪洞の作り方」				2月 9日(木) ～12 (日)	センター 黒沢尾根	リーダーコース生 一般(夏山登山経験者・60歳以下) 35名
【雪山での安全な歩行やテント泊・雪洞作りなど、冬山の基礎的な技術を学んだり、冬の自然に触れたりすることにより、雪山への理解を深める。】						
申込数	受講者数	男	女	県内	県外	受講率
46	35	25	10	23	12	100%
◎榛葉伸男 杉田浩康 中村和義 栗原 久 村田健治 吉田高広 山田正充 臼井政師						
1日目は、榛葉講師より冬山登山の基礎についての講義のあと班会議を行った。そのあと班毎食料計画を立案し買い出し、パッキング等を行った。 2日目は鹿島槍スキー場へ移動し、リフト2本乗り継いだ後、安全なルート設定を行いながら行動し、予定地に幕営した。 3日目は地図を見ながらの行動、ロープワーク、雪崩埋没者の探索訓練後、雪洞を作成した(リーダーコースはビバーク雪洞)。 4日目はルート設定、雪質の観察等を行いながら下山した。						
講座名 (日数)				期 日	場 所	受講対象/定員
リーダーコース修了研修(2日) (リーダーコース生のための講座)				3月 3日(土) ～ 4日(日)	センター センター人工岩場 仏崎の岩場	リーダーコース生 24名
【本年度リーダーコースの全課程を修了する受講生に、リーダーとしての自覚と責任を喚起するとともに、登山技術の確認とまとめの会を行う。】						
申込数	受講者数	男	女	県内	県外	受講率
24	21	15	6	17	4	88%
◎榛葉 伸男 中村 和義 水谷 剛生 栗原 久 傘木 靖 村田 健治 臼井 政師						
1日目は、全講師より「リーダーの責任と自覚」の講義を行った後、人工岩場にて支点の構築、確保技術、懸垂下降等の確認を行った。センターに戻り、1年間リーダーコースを受講しての疑問点、個人の課題、悩みなどを出し合い意見交換会を行った。 2日目は、仏崎の岩場周辺で確保技術、懸垂下降技術等の確認を行いながらの総合登攀訓練を行った。訓練終了後センターに戻り、修了式をして1年間を締めくくった。						